

新しい学習指導要領では、全学年において、語彙指導の充実が求められています。語感を磨き、語彙を豊かにするには、どのような指導をしていけばよいのでしょうか。

語彙指導のアイデア

本特集では、学習指導書『語彙に着目した授業をつくる』の編者である松川利広先生（奈良教育大学教職大学院教授）に、語彙指導のポイントをお伺いします。また、現場の経験豊かな先生方による実践事例もご紹介します。

これまでも、さまざまな工夫をされてきた先生方が多いと思いますが、学習指導要領の改訂を機に、いま一度、語彙指導について考えていきます。

語彙指導のポイント

「ハリネズミ」を育てよう

——豊かな語彙を身につけるために

松川利広先生に、新しい学習指導要領の語彙指導のポイントを整理していただきます。また、子どもたちの語彙を豊かにする手立てについてもお伺いします。



——今回の改訂で、語彙指導の改善・充実が盛り込まれた背景には、どのような課題があったのでしょうか。

中央教育審議会の答申（二〇一六年十二月

※1）では、「小学校低学年における学力差はその後の学力差に大きく影響すると言われる中で、語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響している」と述べられています。語彙の量と質の違いは、文章に書かれた内容を的確に捉える力や、自分の考えを形成し、表現する力と密接な関わりがあります。低学年でこれらの力が十分に育たないと、その後も「分からない」「うまく伝え

られない」という負の連鎖が続き、結果的に学力の伸びが止まってしまうのです。

——新しい学習指導要領では、語彙指導はどのように位置づけられていますか。

大きく二つのことが示されています。一つは、語句の量を増やすこと。もう一つは語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することです。この二つが発達段階に即して位置づけられました。そしてどの学年でも「語彙を豊かにする」ことが求められています。

——「語彙を豊かにする」とは、具体的にはどういったことでしょうか。

語彙の「彙」は、もともと「ハリネズミ」を表す漢字でした。このイメージを借りると、子どもたちにも「語彙」というものが分かりやすく説明できます。つまり、ハリネズミの一本一本の針は、一つ一つの語（語句）に相当し、その針の集まったハリネズミが語彙を表すのです。例えば、「赤」「白」「黒」「黄」などの針を持っているのは、「色」のハリネズミ（語彙）です。

「豊かにする」とは、このハリネズミの針の数を多くするとともに、ハリネズミの個体数を増やすというイメージです。先の例でいうと、「色」に関する針の数を増やすことと、「味」「におい」などといった別のハリネズミの数を増やしていくことです。そして、「色」「味」「におい」というハリネズミたちは、実は兄弟で、「食べ物」というハリネズミの近所に住んでいるといえるでしょう。このように語彙の関係性を学んでいくこともまた「豊かにする」ということです。

——語彙指導で気をつけたいことは何でしょうか。

子どもの生活の中には、身の回りの物事、季節感、友達関係に関わる感情など、語彙指導につながる事柄が無数にあります。ただ、それを英単語を覚えるようにばらばらに記憶させても効果はありません。まさにハリネズミの姿をイメージしながら、関係性や一連の文脈の中で獲得させていくことが必要です。

また、気をつけなければならないのは、子どもたち一人一人がそのときに必要としている語彙は、異なっているということです。

で、評価してもらえた、という気持ちが生えれば、言葉に対する興味もどんどん湧いてくるはずです。教師は、常に「語彙指導」についてアイドリング状態を保ち、今その瞬間の子どもの言葉にアンテナを立てていることが、子どもの主体的な語彙獲得につながるのです。

——来年度から、学習指導要領の先行実施をする際、効果的に指導する方法はありますか。

①「語彙表」を活用した指導

すぐに実践できる例としては、学習指導書『語彙に着目した授業をつくる』（光村図書）の「指導事例編」が挙げられます。教科書の「読むこと」教材を、語句に着目して読む指導の事例を紹介しています。

この学習指導書の付録CD-ROMには、「語彙表」（エクセルデータ）も収録されています。教科書に出てくる語句を一覧にしており、初出箇所と学年ごとの頻度などが検索できます。これを使ってさまざまな指導が可能です。これを使つてさまざまな指導が可能ですが、お薦めは、例えば、あらかじめエクセル表の「計」の欄（教科書の中で使用される回数を示した欄）で、「1」

す。例えば、遠足でお世話になったボランティアガイドの方にお礼の言葉を述べたい、病気で入院しているおばあさんにお見舞いの手紙を書きたい、けんかをした友達と仲直りをしたいなど、一人一人の状況に応じて「欲している言葉」を見極めて、適切にモデルを示すなどの指導も有効です。

——子どもが自ら「語彙を豊かにしたい」と思い、語彙が増えてよかったと実感できるような指導のアイデアを教えてください。

それには、子どもの感動や得意になる気

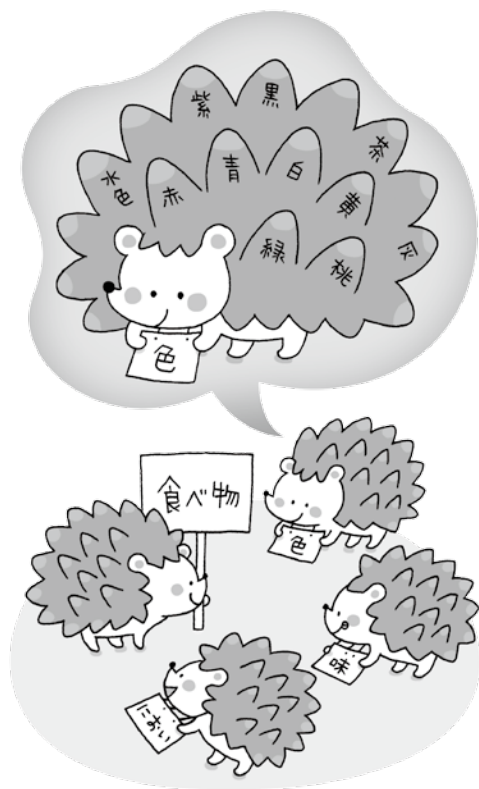
の言葉を一覧表にまとめておくことです。そうすれば、六年間の中で一つの教材を通してのみ取り扱う言葉がひと目で分かり、それらについてはいつその丁寧さをもって理解と定着を図る必要があることが認識できるようになると思います。

また、「意味別分類表」を使えば、類義語や多義語の指導が容易にできるようになっています。他にも「感想・判断・評価語彙一覧表」など、アイデアだけで「書くこと」の指導に役立つものも収録しています。

②日常的な指導の中で

新しい学習指導要領では、低学年で「身近なことを表す語句の量」を増やすことが求められています。これは、生活科と関連させて指導することも考えられます。「学校探検」や「まち探検」の中で、子どもたちから出てきた事物の名前を、教師が子どもたちと一緒にグルーピングするという活動です。国語教科書の「ものの名まえ」（一年下）の学習と関連させるといいでしょう。

中学年では、例えば「白いぼうし」（四年上）から「様子や行動、気持ちや性格を表す語句」を抜き出し、仲間分けをさせるなど、文学的な文章の読みと密接に関わり



イラスト：カモ

持ちを引き出すことが大切です。子どもの何気ないつぶやきの中にある言葉を捉え、それを語彙という観点からクラスみんなのものにしていく。例えば、給食の時間にパセリの味を「ほろ苦い」と表現した子どもがいたとき、こんなやり取りをしたことがあります。

「いい表現だね。ただの苦いとは違うんだね。どうして『ほろ』をつけたの。」

「なんとなく苦いから……。」

「そうだね。ほろ苦いは、なんとなく苦いという、味を表す言葉だよ。A君は、微妙な味の違いをうまく表現できました。みんなも味を表す言葉を発見していきませんか。」

このように、自分の言葉が取り上げられ

ながらの学習が有効でしょう。高学年で求められる「思考に関わる語句」は、説明的な文章を中心に学習し、意見文を書くなどの「書くこと」の指導とつなげていくことも考えられます。

また、私が特にお薦めしたいのは、子どもたち一人一人による「類義語辞典」作りです。教科書の「言葉の宝箱」（二・六年付録）をちよつと工夫して、語彙という意識を高めさせていきませんか。

語彙を豊かにすることは、「ものの見方、考え方、感じ方、表し方」を広げ、深めることにつながります。その意味において、「語彙を豊かにする」という営為は生涯の課題であり、「言葉の力」生きる力に「たくましさ」と「やさしさ」をもたらします。その「語彙を豊かにする」ための礎をしっかりと築くのが小学校段階であると思います。

まつかわとしひろ
松川利広

1952年、愛知県生まれ。奈良教育大学教職大学院教授。日本国語教育学会理事。表現学会理事。編著に『語彙に着目した授業をつくる』（光村図書）、「子どもの育ちと『ことば』（保育出版社）など。光村図書小学校「国語」教科書編集委員を務める。